

令和6年度福島県内バス無料デーの結果について

令和7年6月18日
県生活交通課

1 実施日

- 1日目：令和7年2月27日（木）
2日目：令和7年3月8日（土）

2 参加事業者、路線数

- (1) 参加事業者数：6事業者（福島交通㈱、会津乗合自動車㈱、新常磐交通㈱、ジェイアールバス東北㈱、ジェイアールバス関東㈱、東北アクセス㈱）
(2) 実施路線数：460路線

3 利用者数

利用者の人数については以下の表のとおり

実施日	実施日延べ人数	前週延べ人数	増加延べ人数(増加率)
1日目(2/27)	54,269人	37,852人	+16,417人(143%)
2日目(3/8)	45,573人	23,308人	+22,265人(196%)
合 計	99,842人	61,160人	<u>+38,682人(163%)</u>

- ・ 2日間とも平時と比較して1.5～2倍近い利用者数を記録し、県外から無料デーを目当てに訪れた観光客もいるなど、中心市街地や観光地の賑わい創出に貢献した。
- ・ アンケート結果から、1人当たりの平均利用回数は2.3回であり、実人数ベースでの2日間の合計利用者数は
 $38,682人 \div 2.3回 = \underline{16,818人}$ 増加したと推計される。

4 経済効果

(1) バス無料デーにより増加した利用者による消費額

今回のバス無料デーにより増加した利用者が買い物等で消費した額は
(無料デーで増加した実人数) × (1人当たり平均消費額)
 $= 16,818人 \times 3,440円 = \underline{57,853,920円}$
と推計され、無料デーをきっかけにバスの利用促進に加え利用者の消費活動を刺激したと推測される。

(2) マイカーから公共交通への移動手段の転換による効果

「無料デーでなかった場合どの交通手段で外出するつもりだったか」の問いについて、自家用車と回答した人が35%おり、試算すると
約12,000台分のマイカー利用がバス利用に転換が図られたと推計され、自動車の燃料費や維持費の削減による間接的な家計支援や、環境負荷の軽減や渋滞の緩和といった社会的側面の経済効果も見られた。

福島県バス無料デー アンケート調査結果報告

福島大学 人文社会学群
経済経営学類 吉田ゼミ

報告内容

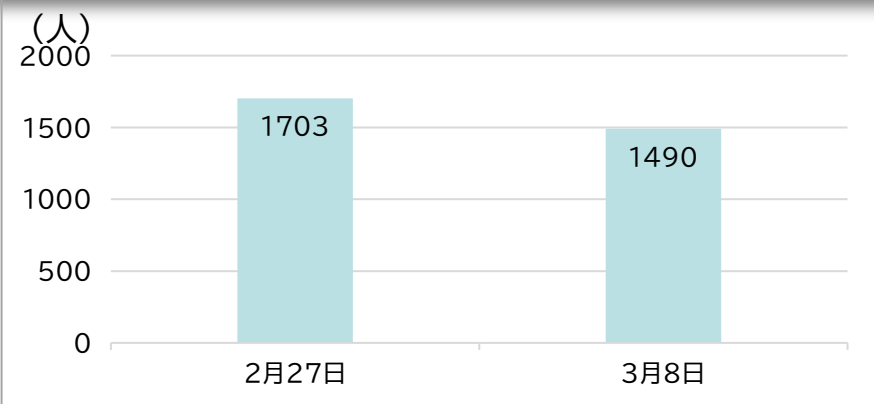
- 01. アンケートの単純集計
- 02. 発着地・在住地の単純集計



単純集計(利用者数と年代)

■利用日(n=3,001)

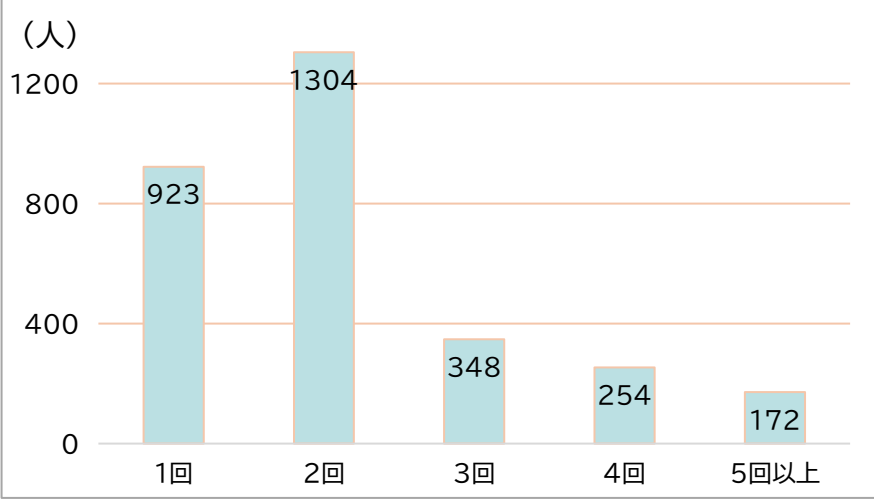
2月27日には**1,703**人, 3月8日には**1,490**人が利用した. また, 192人が両日利用した



■無料バスの利用回数(n=3,001)

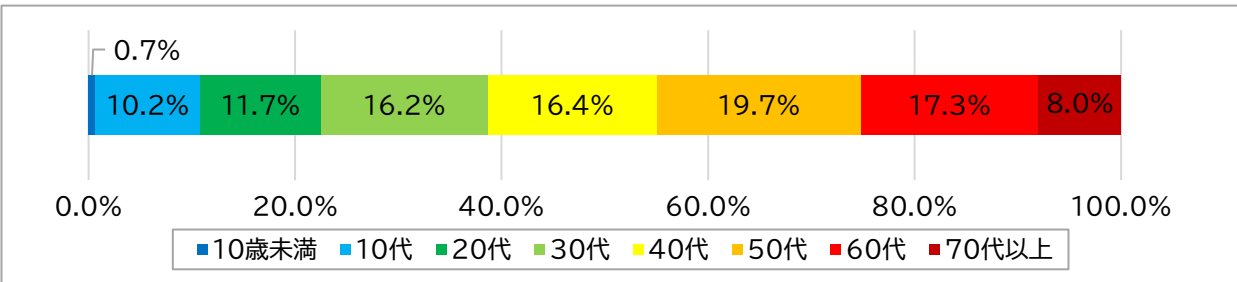
利用回数は**2回**の人が最も多く、全体のおよそ**43%**を占めている

➤ 往復で一回ずつの乗車で、目的地は1箇所
のみの利用者が多かった？



■年代(n=3,002)

50代, 60代の順に利用が多かった

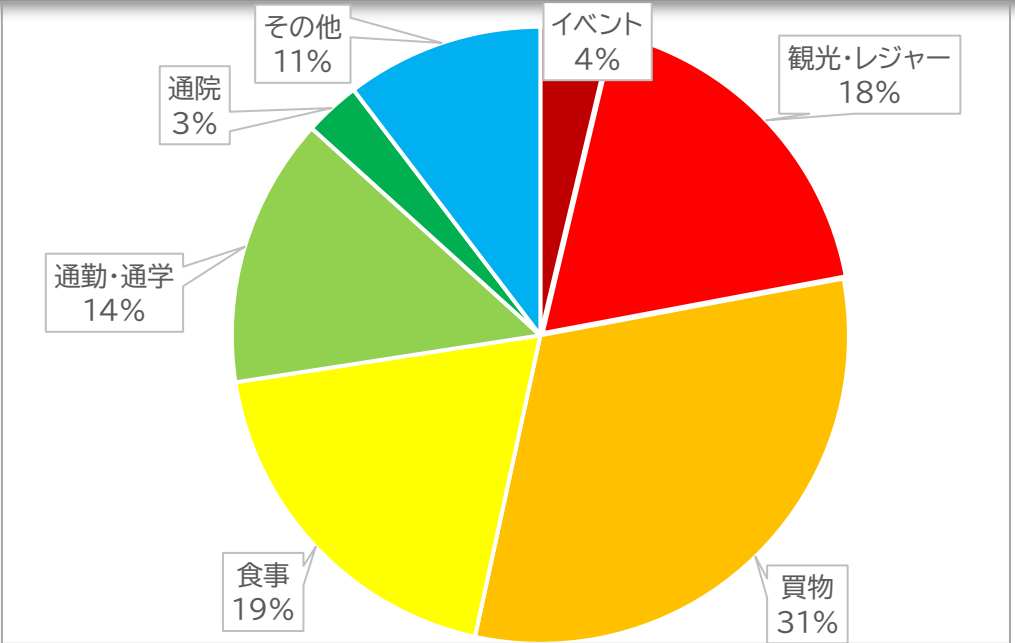


単純集計(お出かけの目的と消費)

■お出かけの目的(n=3,003)

買い物を目的とした利用が最も高く (31.4%), 次いで食事(19.2%), 観光・レジャー(18.3%)が並んだ

➤ その他の項目では、「子どもにバスの乗車体験をさせるため」などの回答があった



■外出先での消費額(n=2,997)

1人あたりの平均消費額は**3,440円**であった

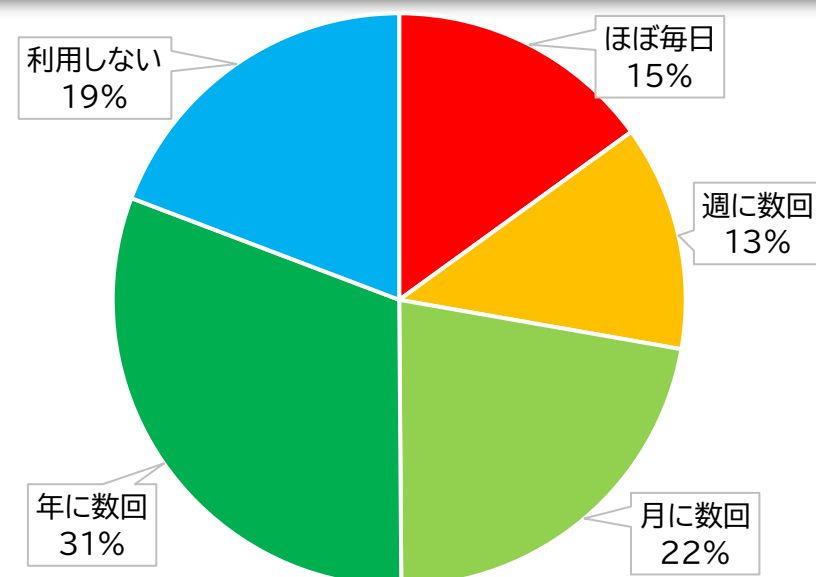
外出先での消費額	回答者数	備考
500円未満	448	250円として計算
500～1,000円未満	377	750円として計算
1,000～3,000円未満	908	2,000円として計算
3,000～5,000円未満	574	4,000円として計算
5,000～10,000円未満	438	7,500円として計算
10,000円以上	252	10,000円として計算
計	2997	1人平均消費額約3,400円

単純集計(無料デー前の利用状況)

■ 普段のバスの利用頻度(n=3,001)

年に数回バスを利用する割合が30.9%と最も高かった。次いで月に数回と回答した利用者が多い

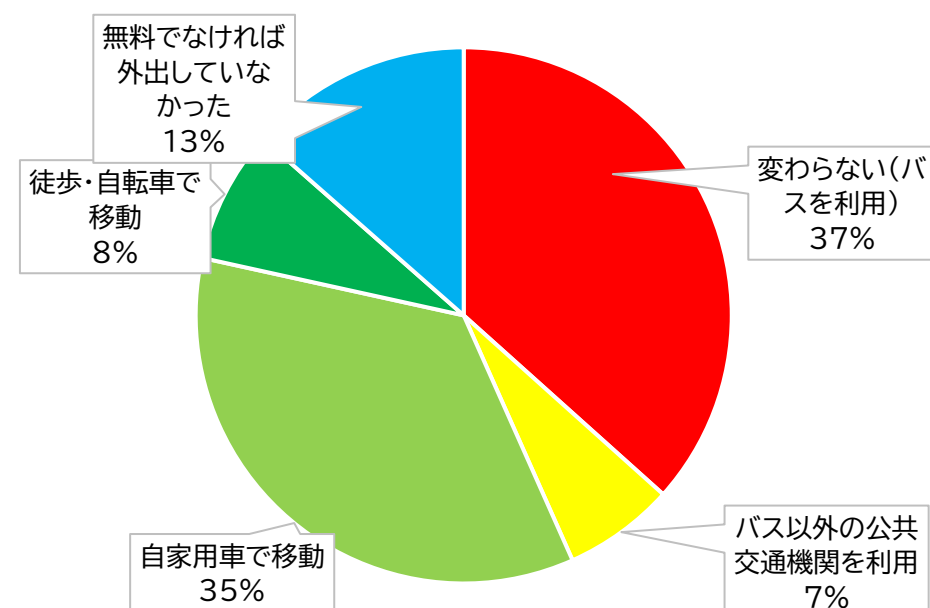
➤ 普段の生活では「たまに使う」ような層が利用した？



■ 代替手段(n=2,997)

バス無料デーではなかった場合の、交通手段は、変わらない(バスを利用)が最も高く、36.6%であった。

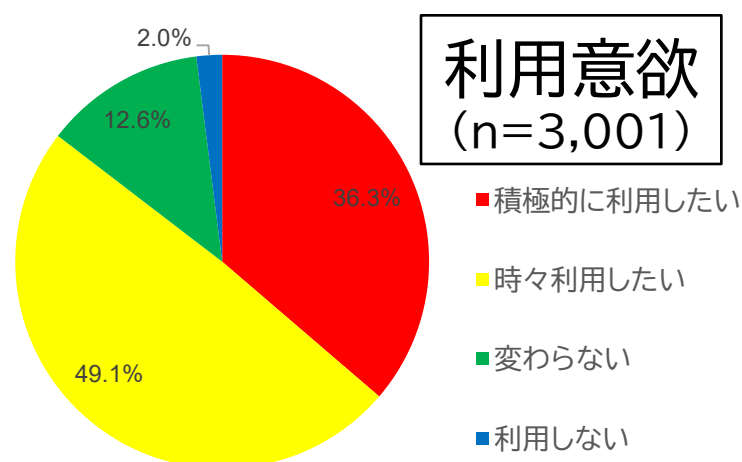
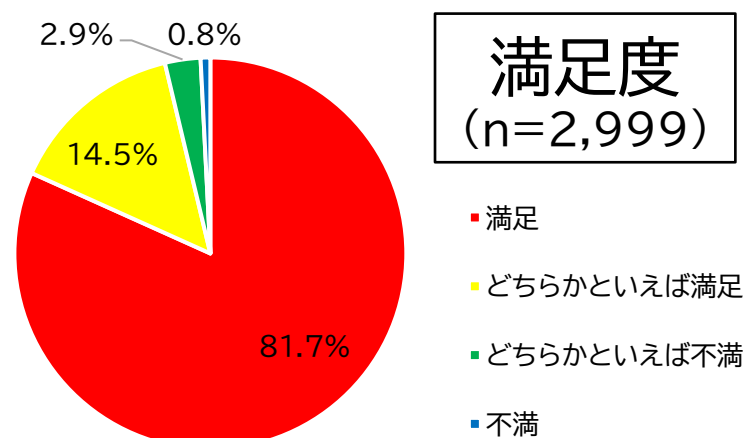
次いで、自家用車を利用していた人は35.1%であった。



単純集計(無料デーについて)

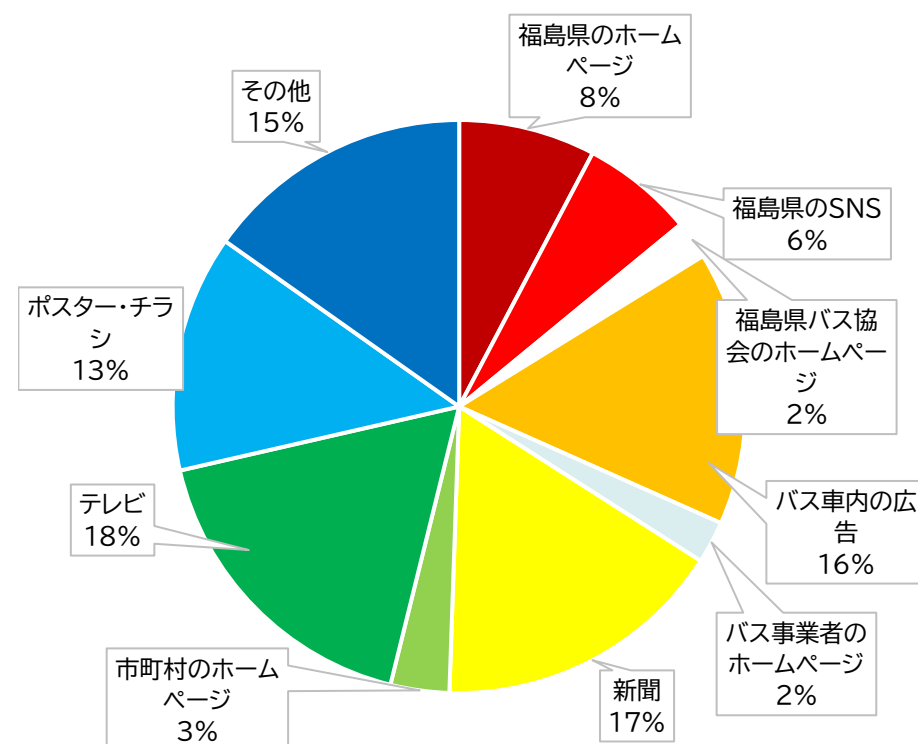
■ 満足度(n=2,999)と今後のバス利用意欲(n=3,001)

バス無料デーの取組みに対して、80%を超える人が満足したと回答
今後もバスを利用したいと回答した人も80%を超える



■ バス無料デーを知ったきっかけ(右図)

最も多くの人々がテレビを情報源としていた。次いで新聞、車内掲示、チラシを見て知り得ている。



発着地に関する分析

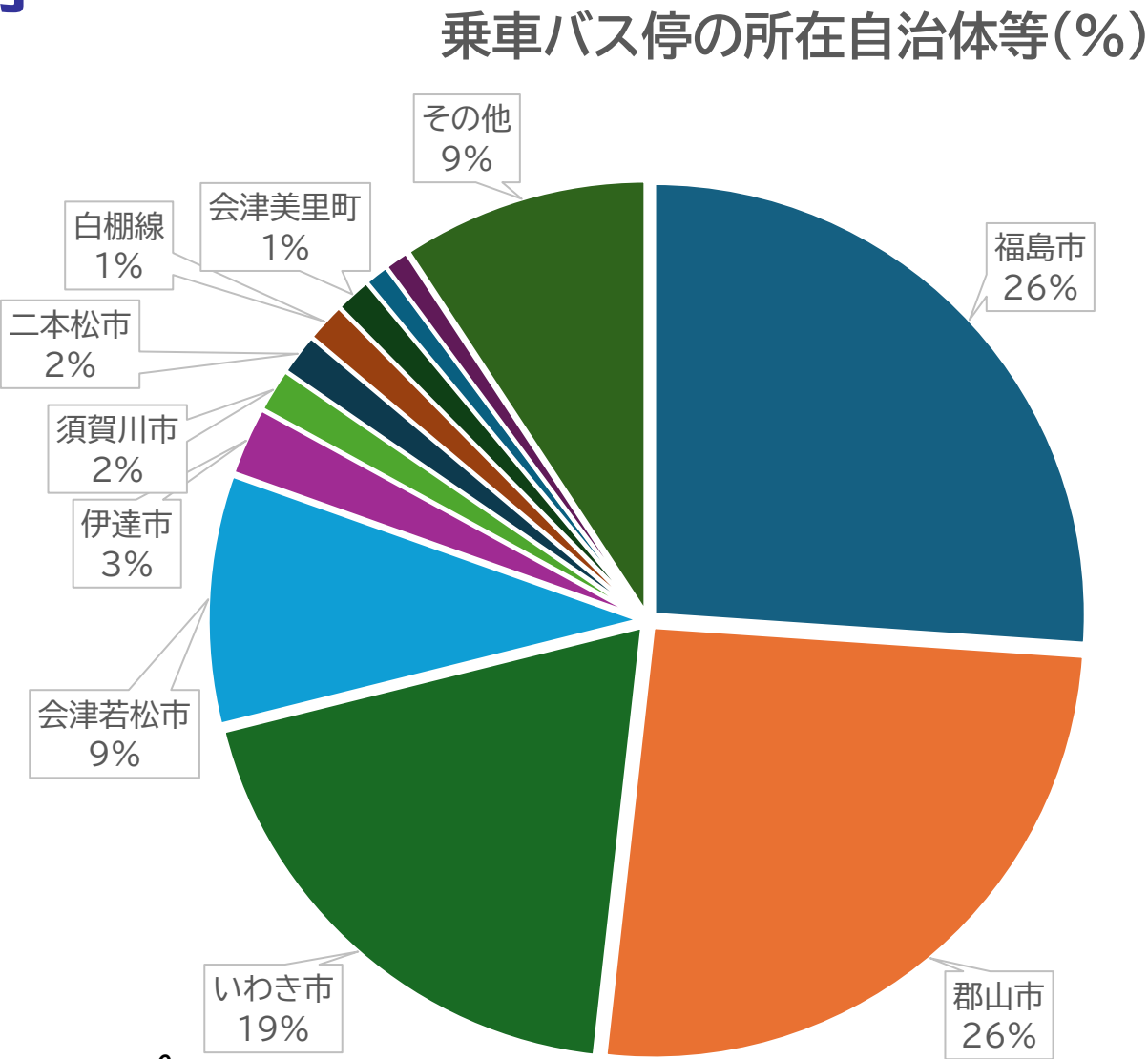
■ 発着地分析における手法

- 回答された停留所名を元に、県内大手3社が公開するGTFSを参照し、Origin(出発地)とDestination(目的地)の市町村を分別
- 曖昧な回答は、その地区を代表する停留所を利用したと仮定
- 無料デー当日は福島駅西口⇔あづま総合体育館の臨時バスが運行されたため、こちらは「臨時」として取り扱う
- ジェイアールバス関東(白棚線)、ジェイアールバス東北(福浪線)、大手3社運行でGTFS公開されていない路線についてはその路線名で分析
 - 例:会津→MyRide・野沢線 福交→こみねっと・リムジン など
 - 東北アクセスについては事業者名で記載

発地に関する分析

■ 乗車バス停の所在自治体等

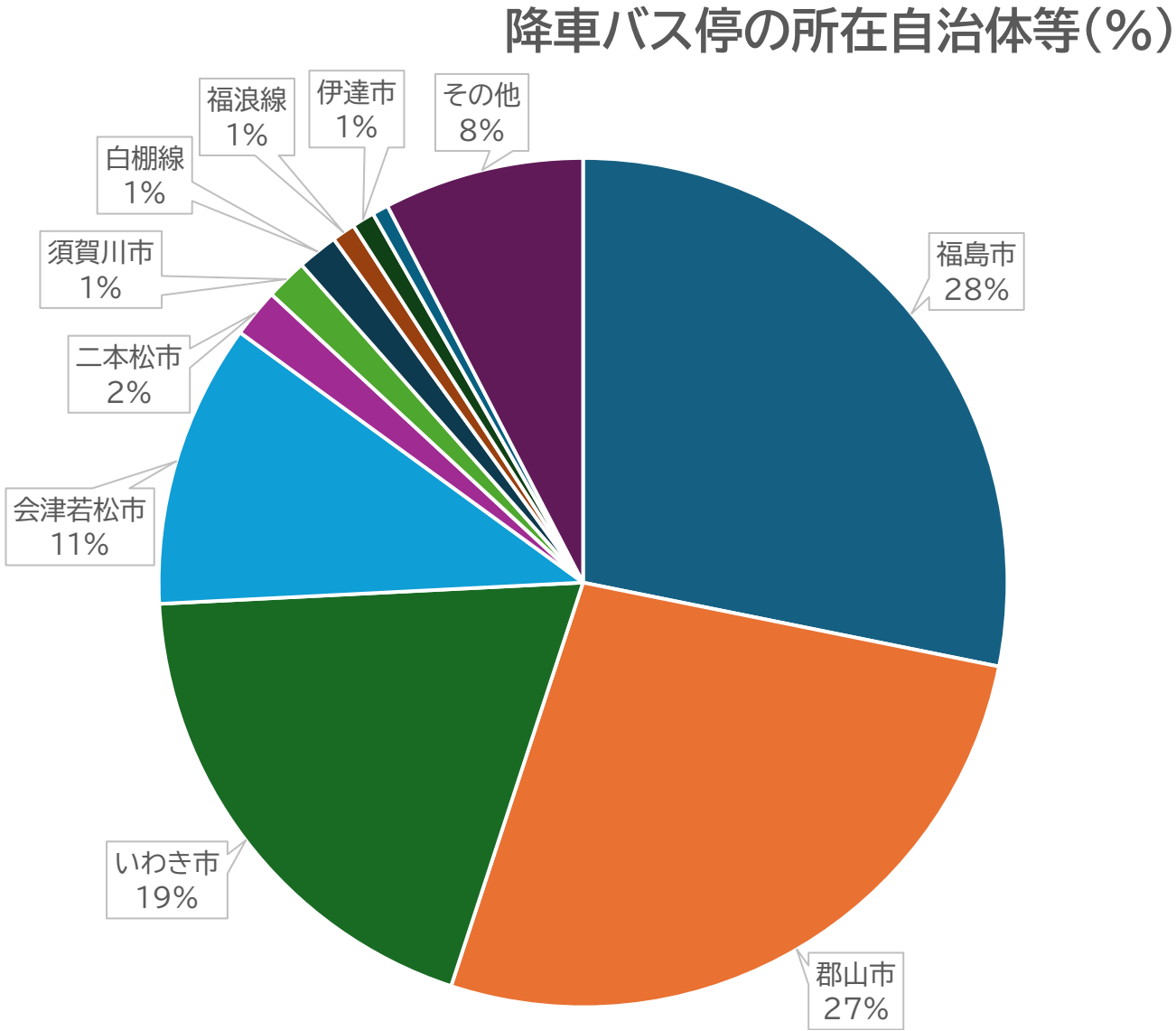
発エリア	人数	発エリア	人数
福島市	758	臨時	10
郡山市	747	アクセス	9
いわき市	563	リムジン	9
会津若松市	271	石川町	8
伊達市	74	湯川村	7
須賀川市	47	鏡石町	6
二本松市	45	相馬市	5
白棚線	43	棚倉町	4
会津美里町	39	北塩原村	4
喜多方市	26	MyRide	3
福浪線	26	こみねっと	3
川俣町	25	古殿町	3
白河市	22	天栄村	3
会津坂下町	17	南会津町	3
桑折町	16	平田村	3
三春町	14	富岡町	2
小野町	14	柳津町	2
本宮市	13	浪江町	2
国見町	12	玉川村	1
西郷村	12	野沢線	1
猪苗代町	12	檜枝岐村	1
田村市	12	計	2922
南相馬市	10		



着地に関する分析

■ 降車バス停の所在自治体等

着エリア	人数	着エリア	人数
福島市	820	三春町	7
郡山市	782	桑折町	5
いわき市	558	相馬市	5
会津若松市	315	富岡町	5
二本松市	54	棚倉町	4
須賀川市	46	天栄村	4
白棚線	45	田村市	4
福浪線	26	北塩原村	4
伊達市	25	MyRide	3
会津坂下町	18	こみねっと	3
喜多方市	18	鏡石町	3
南相馬市	17	川内村	3
白河市	17	湯川村	3
石川町	15	平田村	3
小野町	12	檜葉町	2
会津美里町	11	南会津町	2
西郷村	10	浪江町	2
川俣町	10	下郷町	1
臨時	10	双葉町	1
アクセス	9	飯舘村	1
リムジン	9	本宮市	1
猪苗代町	9	野沢線	1
国見町	8	計	2911



利用者の居住地(県内者のみ)

■ 在住自治体の単純集計

在住自治体(人)

